

平成29年度 第2回 豊田市環境審議会【廃棄物・循環部会】 会議録

【日 時】 平成29年11月14日（火）午前10時00分～午前11時30分

【場 所】 豊田市役所 東庁舎6階 東65会議室

【出席者】

（委員）

部会長	谷口 功	（椋山女学園大学人間関係学部 教授）
	前田 洋枝	（南山大学総合政策学部 准教授）
	山田 恭江	（とよたエコライフ倶楽部 運営委員長）
	小山 克弘	（あいち豊田農業協同組合 常務理事）
	大村 誠治	（豊田市区長会 理事）
	杉山 佐江子	（市民公募）

（事務局） 太田ごみ減量推進課長、中野廃棄物対策課長、梅津清掃業務課長、
岩田清掃施設課長、塩谷環境政策課副課長、
松井ごみ減量推進課副課長、金原ごみ減量推進課担当長

【次 第】

- 1 部会長挨拶
- 2 議題
 - 各事業の市の取組（案）について
 - （1）食品ロス削減
 - （2）分かりやすい情報発信と仕掛けづくり
 - （3）販売店における資源の自主回収の促進
- 3 その他

【配布資料】

- 【資料1】各事業に取り組む必要性について
- 【資料2】各事業の市の取組（案）について
- 【参考資料1】各事業の取組（案）について ※第1回廃棄物・循環部会資料
- 【参考資料2】フードドライブ実施結果について

I 開会

部会長： 本日は、一般廃棄物処理基本計画の各事業の具体的な進め方について、より深めていきたい。

II 議題

事務局： 各事業に取り組む必要性について、資料1に基づいて説明

部会長： 資料1のアンケート内容について、ごみの出し方等で世代別の課題はあるか。

事務局： 転入手続時に分別案内資料をお渡ししているが、学生等は豊田市にいる期間が短いため、ごみの分別ルールが十分に伝わっていない。

部会長： 学生に対しては大学を通じた周知ができるが、一般市民には、分別ルールを周知しにくい。地域のごみ出しの状況はどうなっているか。

A委員： 燃やすごみの日にスプレー缶が間違っ出されることがあるが、分別を促しても不適なごみ出しが繰り返されてしまう。市民に分別意識を持ってもらうには繰り返し分別を依頼するか、回覧板等で周知する必要があるように思う。一方で減量意識の喚起について、生ごみの水分を絞って出してもらうといった啓発が考えられるが、市では周知しているか。

事務局： ごみカレンダーや広報とよたに「水分ひとしぼり運動」について記載し、生ごみをよく絞ってから出してくださいというお願いをしている。また、環境委員には、年に1回の情報交換会でもお願いしている。

A委員： ごみステーションで「水分ひとしぼり運動」を表示してもよいのではないか。

部会長： 分別が不十分な方に、「水分ひとしぼり」を依頼するのはハードルが高いが、きちんと分別してごみを出される方に対しては、ごみステーションに表示して伝えることも効果的である。また、生ごみの8割が水分であるため、焼却効率が低下することを伝えることも効果的である。

B委員： 生ごみの水分量を減らすことで、ごみ処理費用をどのくらい減らせるかを示せば、市民の協力を促す動機付けになる。

部会長： 焼却コスト削減については、CSRの観点で事業者の協力を得やすいが、一般家庭に働きかけるのは難しい面もある。

事務局： 各事業の市の取組（案）について、資料2に基づき説明

C委員： ダンボールコンポストの活用促進について、堆肥の使い道がない家庭では興味を持たれないのではないかと。堆肥の使い道があったり、堆肥になる過程を観察することが夏休みの宿題になるなど、ごみ減量以外のメリットを示せるとよい。また、ダンボールコンポストについて詳しく知らないのと、堆肥を作る経過をSNS等で発信されると興味を持てる。

部会長： 作成した堆肥を回収し、種付きで配布して活用することも考えられる。ただし、集合住宅の場合は管理組合で行うなどの工夫が必要である。他市では、マンションのフロアごとに堆肥作成に取り組み、作成した堆肥を地域の学校菜園に活用している事例もある。

また、ダンボールコンポストの使用期限が半年だとすると、半年後に作成した堆肥をどうするかという課題もある。

- A 委員： タイには、地域ごとに共同で使用するコンポストがあると聞いた。
- 部会長： 市からの情報発信では市民に伝わりにくいので、自治区、中学校区などの地域や学校等が一定の役割を担うことが必要になってくるのではないかと。
- D 委員： JA で堆肥を販売するのは難しいが、家庭菜園をやっている方に、引き取っていただく場所を提供するといった程度なら可能かもしれない。
- 部会長： JA は、農家と協力する仕組みをしっかりと持っている。生産者は、自ら作ったものを大切にしている意識があるので、作ったものは無駄にしないのではないかと。
- D 委員： 自ら作ったものには愛着がある。また、農家では不適物を田畑に戻しており、生ごみの発生量の削減につながっているかもしれない。
- 部会長： 生産に関わらない人は、無駄にしないという意識を持ちにくい。一般的な事業所には、茶殻や食堂の食べ残り削減に関する意識啓発ができればよい。
- A 委員： 事業所から出るごみの処理は収集業者任せになってしまうので、処理先を市が気にしてもよいかもしれない。
- D 委員： 生ごみで水分が滴るなら、ごみ袋に穴を開けるのはどうだろうか。家での保管や運ぶときにこぼしたくないので、必然的に意識が高くなるのではないかと。
- A 委員： 袋から水分がこぼれるのは、主婦に敬遠されるかもしれない。
- E 委員： 穴が開いていないごみ袋でも、新聞紙を敷いて水分を吸わせている人がいるので、袋に穴を開けてしまうと、リサイクルに回るべき新聞紙が更にごみになってしまう可能性がある。
- 部会長： フードドライブで、かなり食品が集まったとのことだが、生活困窮者支援だけでなく、家庭で余っているものを気軽に交換をするような仕掛けづくりもあると報道で聞いた。フードドライブはどこで実施したのか。
- 事務局： 市主催イベントの「リユースフェスタ」において、エコット1階で、社会福祉協議会と連携して10月に開催した。新米の入れ替え時期ということもあり、米が多く提供された。
- 部会長： 精米後2年以内という期間の長さが多くの提供につながったのではないかと。
- 事務局： 期間や回収品目は、NPO法人のセカンドハーベストジャパンを基準とした。
- 部会長： 地域のバザーとタイアップして回収してはどうか。食品は扱えないという地域もあるかもしれないが、上手くフードドライブをマッチングできるとよい。
- B 委員： アンケートの取り方について、提供した方だけでなく、来場者全員に聞くことで、周知にもつながる。また、どんな食品なら寄付できそうかといった質問を入れておくと、イベント参加者全員の行動を促すという効果もある。
- 部会長： 交流館祭で回収コーナーを設けるのもよいかもしれない。
- 事務局： 提供されなかった方の御意見を聞くことは必要と感じた。
- 部会長： 2019（にいまるいちきゅう）運動の推進について、ラグビーWCを意識した

普及啓発はできないか。グローバルシティを意識した取組を来訪者に周知することで、2019 運動やごみ分別を世界に知ってもらうことができる。2019 運動だけでなく、「WE LOVE とよた」やラグビーと結びつけることで、色々な活動に巻き込めると思う。

- 部会長： 区長はごみ問題に熱心に取り組まれていると思うが、本日の3点に関連して、地域の人からどのような声が出ているか。
- A 委員： ごみステーションについて、以前は網を掛けるのみだったが、排出者や回収者が出入りしやすいブロック型に移行しており、昔に比べればごみステーションの利用マナーは良くなっている。
- A 委員： ダンボールコンポストは、どこで購入できるのか。補助金は出るのか。
- 事務局： 市がまとめて購入し、モデル的にチャレンジする人を募る。その結果を踏まえ、更なる普及促進を図っていく予定である。
- A 委員： 集合住宅で家庭菜園や畑を借りている人は、堆肥を活用できる。また、補助金でコンポストを買いやすくなれば参加する人が増えるかもしれない。
- A 委員： 集合住宅は難しそうという意見は多いと思うが、学校の花壇など、活用できそうなところから実施すると思う。
- 事務局： 御指摘のとおり、作った堆肥をどのように活用するかが課題である。
- 部会長： 宣伝方法がインターネットにシフトしている中で、市民に情報を届けるには、箱をおしゃれにするとか、啓発に YouTube を使うなどの発想も重要である。
- C 委員： 市の職員が試行的に実施している様子を YouTube でアップしてはどうか。
- 部会長： 今後は、利用方法をネットで簡単に見られるというような情報伝達の仕組みになっていくのではないかと。また、単に SNS やアプリを利用するだけでなく、市民の行動を促すような情報発信を行うことが重要である。
- E 委員： 食品ロス削減だけでなく、分別も進めないといけない。例えば白色トレイは、トレイ to トレイとしてリサイクルできることを知ってもらう必要がある。
- A 委員： 水分の除去のためには、生ごみだけを分別した方がいいのではないかと。
- 事務局： 焼却施設では、燃えにくいものと燃えやすいものを混ぜて均一化して処理している。水分量を減らす点で、生ごみの分別はいいことだと思うが、市民の方に労力をかけていただくよりは、まずは一絞りをを行うのが大事だと感じる。
- 部会長： 水分といってもイメージできないかもしれないので、ダイレクトに「生ごみのひとしぼり」を伝えたほうがいいのかもわからない。
- B 委員： ごみではないが、省エネ分野で、自分と似たような世帯構成の家と比較できるようなプログラムがあり、動機付けに効果があると聞いたことがある。ごみダイエット家計簿などで似たようなことが行えるとよいと思う。

Ⅲ 閉会

以上 第2回廃棄物・循環部会 終了